

冠攣縮(かんれんしゅく)狭心症について

日本人に多い冠攣縮狭心症

狭心症は、心臓に酸素や栄養を送っている冠動脈が狭くなって、一時的に心臓に十分な血液が行き届かなくなる病気で、胸痛や圧迫感などの症状が起こります。冠動脈が狭くなる原因によって、労作性狭心症と冠攣縮性狭心症の二つに大別されます。労作性狭心症が運動などの動作をした時に起こるのに対し、冠攣縮性狭心症は、就寝中などの安静時にも起こるため、安静狭心症と呼ばれることもあります。

「冠攣縮」とは、冠動脈のけいれんのこと、瞬間的に起こるため、病院で心電図検査を行ってもほとんど見つかりません。しかし、狭心症の6割に冠攣縮が関与しているといわれ、突然死も起こす恐ろしい病気であり、さらに日本人の冠攣縮性狭心症は欧米人に比べて約3倍多いといわれていることから、早期発見、早期治療が大切です。

こんな人は要注意！！

冠攣縮は男性に起こりやすく、特に喫煙は大きな危険因子であることが分かっていますので、まずは禁煙を心がけてください。そのほか、不眠、過労、ストレス、アルコールの飲みすぎなども発作の誘因となります。これらは、動脈硬化を進める原因にもなりますので、生活習慣を見直し、改善するように努力しましょう。

冠攣縮を予防するために

冠攣縮性狭心症と診断されたら、硝酸薬やカルシウム拮抗薬などのお薬によって、冠攣縮を予防する治療を行います。冠攣縮が疑われる場合は、ステント治療後も薬物治療が必要です。

お薬の飲み忘れや自己判断で中止することがないよう、医師の指示を守って正しく服用することが大切です。また、狭心症の発作を起こしたことがある人は、ニトログリセリンの舌下錠やスプレーを常に携帯しましょう。

★労作性狭心症

走ったり、階段を登ったり、運動量が多くなった時に発作が起こります。

血管断面図(動脈硬化)



動脈硬化が進み、冠動脈の一部が狭くなっているため、運動によって心臓の筋肉に酸素が必要になったとき、それに見合う量の酸素の供給が出来なくなります。

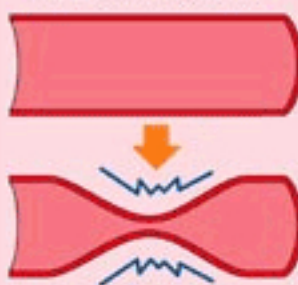
★冠攣縮性狭心症

夜間や早朝、朝方などの安静時に発作が起こります。

突然死を起こすこともあります



血管断面図(正常)



冠動脈の一部が痙攣(スパズム)を起こして急に縮んでしまい、心臓の筋肉へ酸素が供給できなくなります。痙攣が起こる原因は種々様々です。労作性狭心症と違い運動負荷心電図では診断が付きません。検査としては、24時間(ホルター)心電図が重要です。

こんな症状ありませんか？

- 夜間や早朝、朝方に発作が起こる
- 安静にしているも動悸・息切れがする
- 圧迫感がある
- 冷や汗が出る
- 失神する



冠攣縮性狭心症の症状はさまざまです。「心臓が何かおかしい」と感じたら、医師に相談しましょう。

冠攣縮を予防するために

冠攣縮性狭心症と診断されたら、硝酸薬やカルシウム拮抗薬などのお薬によって、冠攣縮を予防する治療を行います。冠攣縮が疑われる場合は、ステント治療後も薬物治療が必要です。お薬の飲み忘れや自己判断で中止することがないよう、医師の指示を守って正しく服用することが大切です。また、狭心症の発作を起こしたことがある人は、ニトログリセリンの舌下錠やスプレーを常に携帯しましょう。

